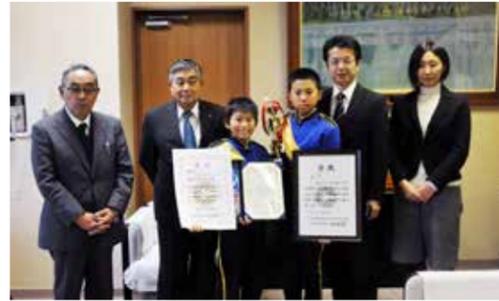


# スクールトピックス



移杖式で見事な演奏を披露する児童



町役場を訪れた佐藤さん(左から3人目)、棚木さん(同4人目)ら

## 長瀬小マーチングバンドが大活躍

第34回全日本小学生バンドフェスティバル東北大会(10月18日、山形県天童市)で銀賞、第44回マーチングバンド・パトントワーリング東北大会(11月7日、宮城県利府町)で優秀賞を受賞した長瀬小は11月17日、報告のため町役場を訪れました。鈴木哲明校長と指導者の新沙央理教諭は「伝統を受け継ぎ、子どもたちが厳しい練習に取り組んだ結果、2つの東北大会に出場し、入賞することができた。応援してくれた皆さんに感謝したい」と町長らに報告。

バンドマスターの棚木大輔さんは「県大会は心配でドキドキしたけど、どちらも東北大会に行けてうれしかった」と感想を述べ、副バンドマスターの佐藤陽生さんは「大会が終わって、僕たちはもう引退しますが、これから後輩たちに声援を」とお願いしました。

11月20日、カメラナで開催された同バンドの移杖式では、保護者や地元の皆さんの前で、感謝の気持ちを込めた見事な演奏を披露しました。

# 笑顔でこんにちは



大好きなパパとママの間でこきげんな琉焯くん

琉焯くんの名前には「心の広い、大きな子に育ててほしい」というパパとママの願いが込められています。

## 森山 琉焯 くん

平成26年12月生まれ  
～翁島駅前  
健次さん・保奈美さん夫婦の長男

いつも元気いっぱい、愛嬌たっぷりな琉焯くん。人見知りせず、外出先でもニコニコとみんなに笑顔を振りまきます。

そんな琉焯くんの好きなテレビは、なんと天気予報。「始まったとたんテレビに近寄ってきて、大好きな晴れのマークをつかもうと手を伸ばしています」とママの保奈美さんは笑います。

日中はおばあちゃん、ひいおばあちゃんと一緒に過ごす琉焯くん。2人とはとても仲良しです。「でも、寝る時はママと一緒にじゃないとだめなんですよ」とおばあちゃんゆみさん。

つい最近、一人でも歩けるようになったという琉焯くん。パパとママが「遊びに連れて行きたい」と心待ちにしている「夢の国」、ディズニーランドを駆け回るのも、もうすぐかもしれません。

※「笑顔でこんにちは」に掲載希望の人は広報担当まで申し出てください。  
☎(62)2111

# スクールトピックス



子どもたちの人気を集めた、町長のいす



商工観光課で職員の説明を聞く児童。「猪苗代には、こんなにいい所がある」ということを多くの人に知ってもらったため、観光パンフレットを作っていることがわかりました

## 猪苗代小の2年生が町役場を見学

猪苗代小学校の2年生は11月20日、生活科の学習で町役場の見学を訪れ、町の仕事について理解を深めました。

担任の先生と一緒に約50人の児童が役場を訪問。職員の仕事内容などについて学びました。子どもたちは、職員の説明に熱心に耳を傾け、さかんに手を挙げ質問しては、メモを取っていました。

子どもたちは、庁舎内を一通り見て回った後、最後に町長室を見学。「町で一番偉い人は町長さんですか?」との児童の質問に「そうです。なぜ偉いかというと、『どうすれば町の皆さんが幸せに暮らせるか』ということをいつも考えているからです」と職員が答えると、子どもたちは深くうなずいていました。

「町長のいすに座ってみよう」と職員が尋ねると、「はい!」と全員が挙手。子どもたちは代わる代わる腰かけて、うれしそうな笑顔を浮かべていました。

# いなわしろみらい会議 かわら版 No.2

みらい会議のメンバーが町内の施設を訪問  
**現場には知らない物語があった**

11月21日、第2回目のいなわしろみらい会議が開かれました。各テーマごとに現場へ出向き、町の現状を把握することが狙いです。ほぼ1日を使って現場をめぐり、現状をまとめる作業をしました。

現場へ行くと、それぞれの分野で、知恵を出して未来への兆しをつくっている人たちがいました。現場の人たちの話や他のメンバーの話を聞き、初めて知ることも多くあったようです。

それぞれの現場には、豊かな地域資源があり、汗を流す人がいて、とても恵まれている環境がありました。

しかし、現状を全体的に見渡すと、官と民、情報、交通など、さまざまな点でのつながりに欠けていることが明らかにになりました。もっと魅力的な町にするためには、これらの連携や情報・意識の共有が必要だと分かりました。

次回の会議は12月10日、「町の未来予測」をテーマに開催されます。

### 【メンバーの声】 ※ふりかえりシートより抜粋

- もともと町にいて外から来た人と見ると違う。町にしていると気づかないおもしろいものがまだまだたくさんありそう。
- 無意識に見ていた景色を意識することによって、町の資源の価値あるいはやり方によってお宝になるモノを見つけられた。
- 人づくりなくして町づくりは出来ない。ハード整備よりソフト面の充実が大事であることに気付くべし。
- メンバーの気づきを共有できたことは未来につながる勇気にもつながったようだ。



メンバーの皆さんが町内を巡り、さまざまな施設を訪問して町の現状を把握しました

詳しい内容は、町ホームページでご覧いただけます。

